

鹿屋市水道事業ビジョン（経営戦略）
に基づく取り組み評価概要報告書
【令和3年度評価結果】

〈目次〉

1 評価の目的	P 1
2 評価の方法	P 1
3 評価結果の概要	P 1
(1) 実現方策の評価結果	P 1～P 2
(2) 投資・財源計画の評価結果	P 3～P 4
4 総括	P 4

令和4年9月
鹿屋市上下水道部
業務課・工務課

1 評価の目的

平成30年度に策定した鹿屋市水道事業の中長期的な経営の基本計画である「鹿屋市水道事業ビジョン(経営戦略)」の実施状況の評価を行い、その結果を予算編成や事業計画に反映させることにより、継続的な経営改善を図る。

2 評価の方法

上下水道部の業務課・工務課による自己評価として、担当係が「実現方策の進捗度」及び「投資・財政計画の健全度」について1次評価を行った後、次に係長以上の職員で構成する「鹿屋市水道事業ビジョン(経営戦略)内部評価会議」が、1次評価の内容が適当であるかを総合的な視点から判断する2次評価を行い、最終的な評価を決定するものである。

(1) 実現方策の評価(74項目)

取り組み内容から現状を分析し、その進捗状況を「完了」、「A：順調」、「B：概ね順調」、「C：遅れている」、「D：その他」の5段階に評価する。

その結果を受けて、今後の取り組みの方向性を「1：拡充」、「2：維持」、「3：改善」、「4：縮小」、「5：廃止」で示す。

(2) 投資・財政計画の評価(収益的収支・資本的収支・補てん財源・資金残高等)

実績値と計画値を比較し、差が生じている場合にはその原因を分析する。

3 評価結果の概要

(1) 実現方策の評価結果(74項目)

基本目標	施策方針	評価項目数
持続	組織体制の強化、健全経営の確保、官民連携の推進など	30
安全	良質な水源の確保、水源水質の保全、浄水施設の整備など	15
強靱	適切な水道施設の更新、管路の耐震化、応急給水の強化など	29

ア 「進捗状況」の評価結果(基本目標ごと)

基本目標	年度	評価分類										計	
		完了		A：順調		B：概ね順調		C：遅れている		D：その他			
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
持続	R3	2	6.67%	5	16.67%	14	46.67%	4	13.33%	5	16.66%	30	100.00%
	R2	2	6.67%	5	16.67%	15	50.00%	4	13.33%	4	13.33%	30	100.00%
安全	R3	0	0.00%	5	33.33%	9	60.00%	1	6.67%	0	0.00%	15	100.00%
	R2	0	0.00%	5	33.33%	9	60.00%	1	6.67%	0	0.00%	15	100.00%
強靱	R3	1	3.45%	7	24.14%	14	48.28%	2	6.90%	5	17.23%	29	100.00%
	R2	1	3.45%	7	24.14%	19	65.52%	2	6.90%	0	0.00%	29	100.00%
合計	R3	3	4.05%	17	22.97%	37	50.00%	7	9.46%	10	13.52%	74	100.00%
	R2	3	4.05%	17	22.97%	43	58.11%	7	9.46%	4	5.41%	74	100.00%

イ 「今後の方向性」の評価結果(基本目標ごと)

基本目標	年度	評価分類										計	
		1：拡充		2：維持		3：改善		4：縮小		5：廃止			
		項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合	項目数	割合
持続	R3	6	20.00%	19	63.33%	5	16.67%	0	0.00%	0	0.00%	30	100.00%
	R2	7	23.33%	17	56.67%	6	20.00%	0	0.00%	0	0.00%	30	100.00%
安全	R3	0	0.00%	11	73.33%	4	26.67%	0	0.00%	0	0.00%	15	100.00%
	R2	0	0.00%	15	100.00%	0	0.00%	0	0.00%	0	0.00%	15	100.00%
強靱	R3	3	10.34%	19	65.52%	7	24.14%	0	0.00%	0	0.00%	29	100.00%
	R2	6	20.69%	22	75.86%	1	3.45%	0	0.00%	0	0.00%	29	100.00%
合計	R3	9	12.16%	49	66.22%	16	21.62%	0	0.00%	0	0.00%	74	100.00%
	R2	13	17.57%	54	72.97%	7	9.46%	0	0.00%	0	0.00%	74	100.00%

ウ 主な各種指標の進捗状況

番号	各種指標	令和2年度実績	令和3年度実績	令和10年度目標	進捗率
1	営業収支比率	※① 108.92%	117.23%	119.40%	98.18%
2	経常収支比率	121.23%	122.51%	121.10%	101.16%
3	料金回収率	※① 104.37%	113.60%	116.70%	97.34%
4	有収率	81.15%	82.98%	84.40%	98.32%
5	管路の更新率	0.40%	0.43%	0.74%	58.11%
6	施設利用率	79.91%	78.07%	74.4%	※②
7	一人一日平均配水量	370.00ℓ	361.00ℓ	325.00ℓ	111.08%
8	配水池の耐震化率	55.20%	55.20%	61.00%	90.49%
9	基幹管路の耐震適合率	60.90%	61.20%	68.40%	89.47%

※① 新型コロナウイルス感染症の影響に伴う水道料金（基本料金）の免除措置により、給水収益が減となったため。

※② 厚生労働省は予備力確保のため、施設利用率は75%以下とすることを推奨している。

エ 主なもの

基本目標	具体的施策	今後の方向性
持続	①専門性が求められる技術者や経理事務職員の確保・育成	●電気技師及び土木技師の拡充 ●DB方式の試行的導入
	②収支均衡した中長期的な投資・財政計画（経営戦略）の策定とその計画に基づいた健全経営	●投資・財政計画（経営戦略）について、国が要請している令和7年度までに見直しの実施
	③必要に応じた料金改定の検討	●投資・財政計画（経営戦略）の検証結果を踏まえたうえでの、必要に応じた検討
	④施設の統廃合やダウンサイジングの実施	●施設規模適正化計画に基づく、年次的な施設整備等の実施 ●資材の高騰による水道事業ビジョン及び施設規模適正化計画の見直しの検討
	⑤発展的広域化の検討	●県主導による令和4年度内の広域化プラン策定
安全	⑥水源の適切な維持管理と計画的な施設の更新	●施設規模適正化計画に基づく、年次的な施設整備等の実施
	⑦予備力確保や施設統合等に対応した良質な水源開発の実施	●予備力確保のための良質な水源開発の実施
強靱	⑧水道施設の更新計画の策定と計画的な更新	●管路更新を実施していくための体制の構築
	⑨有収率の向上	●漏水調査地区の見直し ●減圧弁等の定期点検を実施
	⑩基幹施設・管路の耐震化	●計画的な耐震化工事の実施
	⑪浄水場系統・配水系統間の連絡管整備	●資材の高騰による水道事業ビジョン及び施設規模適正化計画の見直しの検討

(2) 投資・財政計画の評価結果(令和3年度決算)

ア 収益的収支

- ① 収入については、給水収益が新型コロナウイルス感染防止による外出自粛等の影響に伴い、一時的に使用水量が増加したこと等により、対計画比で約6,800万円の増となり、その他営業外収益も損害賠償金分の保険金収入や退職給付引当金戻入益等により、約7,200万円の増となったことから、合計では対計画比で約1億4,500万円の増となる。
- ② 支出については、職員給与費が職員数の減等により、対計画比で約6,400万円の減であったものの、委託料は水道法改正に伴う台帳整備や労務単価の上昇等で約5,900万円の増、修繕費は水源地・配水池等のポンプ設備等の経年劣化による修繕の増加で約3,800万円の増、資産減耗費は新生ポンプ場旧配水池設備等撤去等により、約2,100万円の増、その他営業費用は漏水事故訴訟に係る損害賠償金を支出したこと等により、対計画比で約2,400万円の増があったこ

とから、合計では対計画比で約1億1,000万円の増となる。

- ③ 当年度純利益については、①と②の収支の結果、対計画比で約3,500万円の増となる。

イ 資本的収支

- ① 収入については、主に工事負担金が工事に伴う負担金の増により、対計画比で約2,100万円の増があったことから、合計では対計画比で約2,900万円の増となる。
- ② 支出については、委託料が水道施設拡張事業(試験井掘削)の実施により、対計画比で約5,800万円の増であったものの、工事請負費が水道施設整備計画に係る見直し等により、対計画比で約9,400万円の減であったことから、合計では対計画比で約5,300万円の減となる。
- ③ 不足額については、①と②の収支の結果、対計画比で約8,200万円の減となり、内部留保資金により補填した。

ウ 評価結果

収支のバランスはとれており、最終的に収益的収支及び資本的収支が計画より好転したことなどを受けて、資金残高は対計画比で約2億9,800万円の増、事業収益に対する資金残高率は対計画比で2.6ポイントの増となり、概ね計画どおりの財政運営が図られている。

4 総括

「進捗状況と課題」では、組織の強化、老朽管対策など課題のある施策もあるが、事業運営の効率化、良質な水源の確保、施設の統廃合などの施策評価で、「完了」、「A：順調」及び「B：概ね順調」の合計割合が77.02%を占めることから、概ね計画どおりに進んでいると判断する。

また、「今後の方向性」では、官民連携の推進、広域化の検討、応急給水の強化などの施策評価で、「1：拡充」及び「2：維持」の合計割合が78.38%を占めていることから、基本的には現在の取り組みを継続しつつ、建設改良事業については資材高騰などに伴う財源確保のための「投資・財政計画」及びビジョンの具体的内容を定めた「施設規模適正化計画」の見直しが、今後求められてくる。